

03

紳士シャツの着装イメージに関与する
色柄要因の検討Factors of color and pattern related to the image
of men wearing shirts名古屋学芸大学 メディア造形学部 ファッション造形学科・助手
Nagoya University of Arts and Sciences School of Media and Design
Department of Fashion Design・Research Associate

深津 光平 Kouhei FUKATSU

相山女学園大学 生活科学部 生活環境デザイン学科・教授
Sugiyama Jogakuen University School of Life Studies
Department of Human Environment Design・Professor

石原 久代 Hisayo ISHIHARA

1 はじめに

2005年度から環境省が中心となって環境対策などを目的とした衣類の軽装化キャンペーンである『クールビズ』が始まり、産官の連携もあって、翌2006年に実施されたアンケート調査の結果では、『クールビズ』の認知度は96.1%に達し、現在では広く国内に浸透している。

本来は、地球温暖化対策の一環として夏季に摂氏28℃以上の室温に対応できる軽装の服装を着用できるように呼びかけたものであるが、この機に、アパレル業界における各商品アイテムの需要傾向が一変するという結果になった。2005年の段階では衣料メーカーや百貨店は、かつての「カジュアルフライデー」に続く紳士服の商機ととらえ、開襟シャツなど、ネクタイを装着しなくてもだらしなく見えないシャツなどを展開し、一方で夏季における重衣料やネクタイの消費が減少することとなった。当時、日本国内ではクールビズに関しては賛否両論があったが、2011年3月の東日本大震災とそれに伴って起きた東京電力福島第一原子力発電所での事故等により東日本全体で夏場の電力不足が想定されたことから官公庁でクールビズの期間を5月から10月までに延長し、現在まで継続されている。

これまで、男性のビジネスシーンでの服装は、冬季、夏季を問わずワイシャツにスーツが定番であったことから、男性より女性の服装に関する研究が多く行われ^{[1]-[3]}、男性の服装に関する研究はほとんど見られない。

しかし、近年、「メンズ・ノンノ」、「メンズ・クラブ」などの男性ファッション誌も多数出版され、特に若い世代を中心に男性の服装もファッション化が進んでいる。

『クールビズ』においては、ジャケットを着用しない、ノーネクタイにするといった着用方法については比較的取り上げられるが、シャツの色柄などについては個別で取り上げられても、視覚的総合評価として取り上げられることは少ない。しかし、シャツは全身における着装面積が大きいと、その色柄が服装のイメージに大きく関与することは明らかである。

そこで本研究では、紳士シャツを取り上げ、その色柄が着装イメージにどのように関与するかについて検討した。これらの要因の解明は、個人のコーディネート場面での利用だけでなく、紳士シャツの企画・販売にも貢献できるものと考えられる。

2 方法

2-1 平面における色柄実験

2-1-1 平面試料の作成

まず、紳士用ワイシャツに用いられる色彩を調査するために紳士洋服店にて、色柄の傾向を調査した。その結果をもとに視覚的温度感に影響を及ぼすと考えられる色彩を取り上げることとした。基本色として市場調査にて出現した赤(1t2)、黄(1t8)、緑(v12)、明るい緑(1t12)、青(v18)、明るい青(1t18)、暗い灰(Gy-5.0)、明るい灰(Gy-7.5)、の8色を選出し、基本色とした。さらに、ストライプの構成として、これら8色の基本色

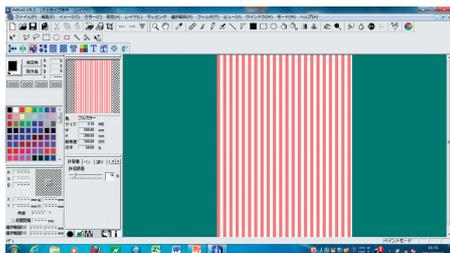


図1/試料作成方法

表1/試料表

	太いストライプ	細いストライプ	太いストライプ平均	細いストライプ平均
赤				
黄				
暗い緑				
明るい緑				
暗い青				
明るい青				
暗い灰				
明るい灰				

表2/試料の測色値(L*a*b*)

試料色	L*	a*	b*
赤	68.35	25.46	6.1
黄	88.75	-9.07	29.6
濃緑	52.56	-37.64	21.84
薄緑	82.54	-14.03	15.4
濃青	37.86	9.92	-32.66
薄青	44.4	7.79	-38.96
濃灰	37.9	-0.04	-1.85
薄灰	67.91	-0.13	-5
赤ave	79.77	14.17	2.56
赤(細)ave	85.23	9.2	-2.41
黄ave	91.17	-5.74	17.67
黄(細)ave	90.26	-0.93	1.76
濃緑ave	73.41	-15.51	10.62
濃緑(細)ave	79.73	-15.07	5.3
薄緑ave	85.85	-7.46	6.81
薄緑(細)ave	87.95	-3.7	0.92
濃青ave	66.91	3.96	-18
濃青(細)ave	72.77	3.16	-16
薄青ave	70.24	4.11	-22.58
薄青(細)ave	78.84	3.79	-15.32
濃灰ave	71	0.59	-4.33
濃灰(細)ave	80.52	1.17	-5.6
薄灰ave	77.58	1.14	-4.22
薄灰(細)ave	82.81	0.76	-5.37

に白のストライプを組み合わせて、白と基本色の縞の太さが同じ割合のもの、基本色ストライプをそのまま、白ストライプを太くした各色2種類を図1に示したように4D-box(株式会社ヨシマビジネスシステム)で作成した。また、先に作成したストライプ16種類をPhotoshopにおける画像平均を使って全画面を平均化した無地の試料を作成した。それらの試料表を表1に示した。

2-1-2 平面試料の測色

作成したストライプ16種類と平均化した無地16種類の計32種について分光色彩色差計(コニカミノルタCM600d)を用いてL*a*b*測色した。各色の測色値を表2にまとめた。

2-1-3 平面試料を用いた実験方法

実験は、先に示した32種類の試料をA4にプリントアウトし、それらをランダムに提示して行った。

被験者は名古屋学芸大学ファッション造形学科学学生60名であり、評価イメージ用語は、ワイシャツのイメージを把握するのに適していると考えられる「派手な-地味な」、「暑い-涼しい」、「軽やかな-重々しい」、「フォーマルな-カジュアルな」、「若々しい-年配の」、「好きな-嫌いな」、「ソフトな-ハードな」、「上品な-下品な」、「高価な-安価な」、「合わせやすい-合わせにくい」の10形容詞対を用いた。評価は、SD法による5段階評定の官能検査を行った。実験実施時期は2014年7月である。

得られた5段階評価について5~1点の数値を与え、平均官能エネルギーを算出するとともに、主因子解法による因子分析(バリマツ

クス回転)を行い、イメージに関与する要因について検討した。

2-2 着装画像による評価実験

2-2-1 着装画像試料の作成

2-1の実験においては、ストライプおよび無地を布地の色柄としてとらえた視覚評価実験を行ったが、本章では実際に着装し

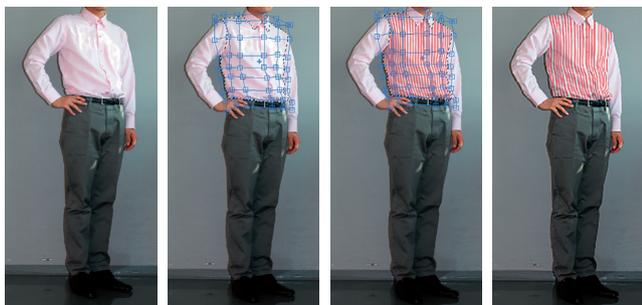


図2/着装画像の作成工程

た状態のイメージに色柄がどのように関与するかについて実験を行った。実験に用いた試料は、平面試料をすべて用いるには試料数が多くなることから、先の実験結果をもとに、比較的近い画像である緑と灰をそれぞれ1種類除いたストライプ12種と無地12種類を合わせて24種類とした。

着装画像は4D-boxPLANS3.1(㈱トヨシマビジネスシステム)で作成した。なお、着装画像の作成工程を図2に示した。図は右身頃のマッピング工程を示したが、シャツ着用の左右の身頃パーツの他に左腕、右腕、左カフス、右カフス、左襟、右襟の計8パーツに分けて選択範囲を取り、マッピングを行った。

表3/着装画像の試料色

	太いストライプ	細いストライプ	太いストライプ平均	細いストライプ平均
赤				
黄				
緑				
暗い青				
明るい青				
明るい灰				

作成したストライプ柄、およびそれを平均したもの各12種類、計24種類を試料として実験を行った。その試料表を表3に示した。なお、ストライプを平均化した無地については太いストライプからの無地を濃い無地、細いストライプからのものをうすい無地と表記する。

2-2-2 着装画像を用いた実験方法

被験者は2-1の実験と異なる同学科の学生75名であり、2-1の実験と同様の10形容詞対を用いて、SD法による5段階評定の官能検査を行った。実験実施時期は2014年10月である。試料の提示方法は、液晶プロジェクターにより、等身大に近づけた全身画像試料を1画像ずつランダムに提示して評価させた。なお、着用について、ボトムスは色彩の影響を極力抑えるために、JISの色彩実験の背景色に準拠したN5.0のグレーのパンツを着用させた。また、ビジネスシーンでのクールビズを念頭に入れていることからシャツの裾はパンツの中に挿入し、黒のベルトを着用した。

得られた評価について5~1点を与えて数値化し、平均官能量を算出するとともに、因子分析を行い、内在因子を抽出するとともに、平面試料のイメージとの差異についても検討した。さらに、温度感に関与する要因については数量化I類を用いて検討した。

3 結果および考察

3-1 平面試料における色柄実験

3-1-1 平均官能量

先に示した32種の平面試料における平均官能量を図3に示した。

「派手な-地味な」については他の形容詞対に比べて、ストライプと無地の評価の差が大きく、どの色彩についても太いストライプが最も「派手な」と評価され、次いで細いストライプが挙げられている。しかし、無地の試料については色彩間の差が大きく、暗い灰や明るい灰の無地の試料が「地味な」と評価されている。

「暑い-涼しい」において、「暑い」と評価されたのは暗い灰の太いストライプが3.95、次いで暗い緑の太いストライプ、暗い灰の細いストライプと続き、低明度の試料が挙げられている。逆に、「涼しい」と評価されたのは、明るい緑の無地が最も涼しく、続く試料も明るい緑や明るい黄といった高明度の無地がほとんどであった。

「軽やかな-重々しい」において、最も「軽やかな」と評価されたのは、黄の無地であり、次いで明るい緑の無地が続き、緑と黄の高明度の試料が挙げられた。逆に、最も「重々しい」と評価され

たのは、暗い灰の太いストライプ、次いで同色の細いストライプが続き、特に灰の低明度の試料が重々しいと評価されている。

「フォーマルな-カジュアルな」において、最も「フォーマルな」と評価されたのは、暗い灰の無地、次いで明るい灰の無地が続き、灰色が挙がっている。逆に、「カジュアルな」と評価されたのは、暗い緑の太いストライプが最もカジュアル、次いで赤の太いストライプ、暗い緑の細いストライプと続いており、特にバックの白との彩度コントラストの強い試料がカジュアルと評価されている。

「若々しい-年配の」において、最も「若々しい」と評価されたのは、黄色の太いストライプ、次いで赤の太いストライプ、黄色の細いストライプと続き、暖色系の高彩度の試料が挙がっている。逆に最も「年配の」と評価されたのは、暗い灰の無地であり、次いで明るい灰の無地、暗い青の無地と低彩度の試料が挙がっている。

「好きな-嫌いな」については他の形容詞対に比べて、評価の差は比較的小さく、最も「好きな」と評価されたのは、黄色の無地であり、次いでうすい赤の無地、うすい黄色の無地であり、無地の試料が「好きな」と評価されている。逆に「嫌いな」と評価されたのは、暗い緑の太いストライプ、明るい灰の太いストライプと緑と灰の試料が多数「嫌いな」と評価されている。

「ソフトな-ハードな」において、「ソフトな」と評価されたのは、黄色の太いストライプからの無地であり、次いで黄色の細いスト

ライプからの無地、明るい緑のストライプからの無地と高明度の無地が続いている。逆に「ハードな」と評価されたのは、暗い灰の太いストライプ、暗い緑の太いストライプ、暗い青の太いストライプとコントラストの強い太いストライプが挙がっている。

「上品な-下品な」において、最も「上品な」と評価されたのはうすい黄色の無地であり、次いで明るい緑の無地、明るい青の無地といった高明度の無地の試料が多く挙がっている。逆に、「下品な」と評価されたのは、暗い緑の太いストライプ、赤の太いストライプ、暗い緑の細いストライプ、赤の細いストライプと、特に赤と緑の試料が挙がっており、無地に比べてストライプは下品であると評価されている。

「高価な-安価な」において、最も「高価な」と評価されたのは明るい青の無地であり、次いで黄色の無地が続いており、無地の方が「高価な」イメージが強いことが明らかになった。逆に「安価な」と評価されたのは、ほとんどがストライプの試料であり、赤、黄、暗い緑などが挙がっている。

「合わせやすい-合わせにくい」において、「合わせやすい」と評価されたのは、黄色や灰色の無地の試料が挙がっており、低彩度の試料が「合わせやすい」と評価されている。逆に「合わせにくい」と評価されたのは何れもストライプの試料であり、多くはコントラストの強い太いストライプといえる。

3-1-2 因子分析結果

これら各形容詞対の平均官能量をもとに主因子解法による因子分析(バリマックス回転)を行った結果を表4に示した。固有値1.0以上で第2因子まで抽出され、その累積寄与率は86.9%であり、説明力は十分であると判断できる。

第1因子で高い負荷量を示したのは「フォーマルな-カジュアルな」、「派手な-地味な」、「高価な-安価な」、「合わせやすい-合わせにくい」、「上品な-下品な」、「若々しい-年配の」の6形容詞対であり、これを「品質の因子」とした。なお、「派手な-地味な」と「若々しい-年配の」についてはマイナスの負荷量であることから、内在因子は「フォーマルな」、「地味な」、「高価な」、「合わせやすい」、「上品な」、「年配の」が共通因子であるといえる。

表4/因子分析結果(平面試料)

形容詞対	FAC1	FAC2
フォーマルな-カジュアルな	.943	-.210
派手な-地味な	-.929	-.108
高価な-安価な	.902	.206
合わせやすい-合わせにくい	.855	.351
上品な-下品な	.835	.509
若々しい-年配の	-.830	.435
軽やかな-重々しい	-.066	.978
好きな-嫌いな	-.005	.876
ソフトな-ハードな	.282	.873
暑い-涼しい	-.097	-.868
寄与率(%)	47.8	39.1
累積寄与率(%)	47.8	86.9

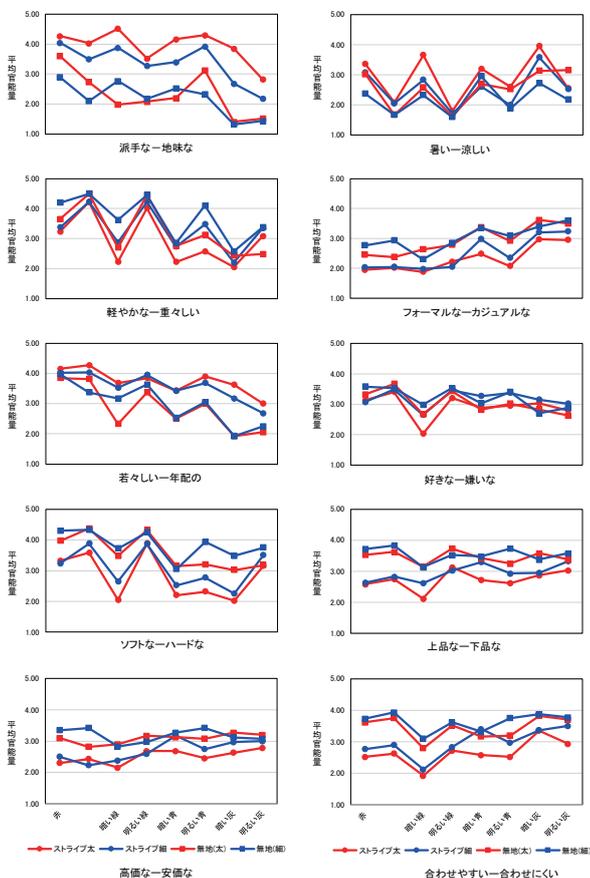


図3/平均官能量(平面試料)

また、第2因子では、「軽やかな-重々しい」、「好きな-嫌いな」、「ソフトな-ハードな」、「暑い-涼しい」の4形容詞対が高い負荷量を示し、「軽量感の因子」とした。「暑い-涼しい」の第2因子の負荷量はマイナスであることから、「軽やかな」、「好きな」、「ソフトな」が「涼しい」という評価と連動することが判明した。

3-2 着装画像による評価実験

3-2-1 平均官能量

図4に着装画像における平均官能量を示した。

「派手な-地味な」については試料間の差が非常に大きく、最も「派手な」と評価されたのは、赤の太いストライプであり、次いで濃い緑の無地、濃い青の無地、緑や青の太いストライプであり、高彩度の試料が多く挙がった。逆に「地味な」と評価されたのは無彩色の灰の無地の2画像が突出して出現している。灰色の場合、ストライプについては平均の3.0に近い官能量であるのに対し、無地になると「地味な」イメージが増幅するものと考えられる。

「暑い-涼しい」において、「暑い」と評価されたのは、赤の太いストライプであり、次いで、濃い赤の無地、うすい赤の無地、赤の細いストライプと続いており、何れも赤の試料であった。逆に「涼しい」と評価された試料は、明るい青の細いストライプや黄色の細いストライプ、暗い青のストライプなどであり全体的に同一色の場合ストライプの方が「涼しい」と評価されている。

「軽やかな-重々しい」については、夏のシャツであることから全体的に「軽やかな」と評価された試料が多い。そのような中で最も「軽やかな」と評価されたのは、黄の太いストライプであり、次いで黄の細いストライプ、緑の細いストライプ、黄のうすい無地と黄の試料が続いている。逆に、最も「重々しい」と評価されたのは、暗い青の太いストライプ、次いで暗い青の無地、明るい青の無地と続いており、色相の影響がうかがえる。

「フォーマルな-カジュアルな」については試料間の差が大きく、最も「フォーマルな」と評価されたのは、うすい灰の無地であり、次いで濃い灰の無地、暗い青の無地と続いている。逆に、「カジュアルな」については、今回の試料がノーネクタイのシャツであることから「カジュアルな」と評価された試料が多い。最も「カジュアルな」と評価されたのは、赤の太いストライプであり、次いで濃い緑の無地などが「カジュアルな」と評価され、全体的には無地の方が「フォーマルな」、太いストライプが「カジュアルな」と評価される傾向がうかがえる。

「若々しい-年配の」についても試料間の差は大きく、最も「若々しい」と評価されたのは、赤の太いストライプであり、次いで緑の太いストライプ、明るい青の太いストライプと太いストライプの試料が多く挙がった。また色彩では高彩度の試料が影響していると考えられる。逆に、最も「年配の」と評価されたのは、うすい

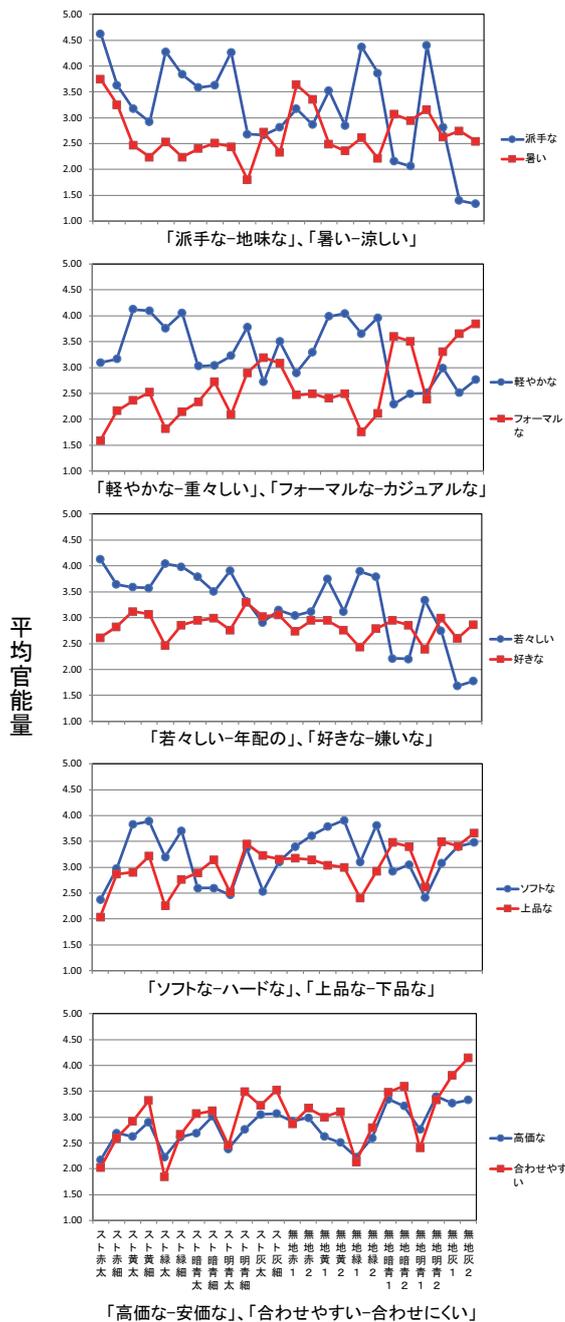


図4/平均官能量(着装画像)

灰の無地であり、次いで濃い灰の無地、暗い青の無地と続いている。

「好きな-嫌いな」については、全形容詞対の中で最も試料間の差が小さいが、最も「好きな」と評価されたのは、明るい青の細いストライプであり、次いで黄の太いストライプ、黄の細いストライプ、灰の細いストライプと続いており、比較的細いストライプの評価が高かった。逆に「嫌いな」と評価されたのは、濃い青の無地や濃い緑の無地、緑の太いストライプと続き、緑や濃い青が「嫌いな」評価に繋がっている。なお色彩については特に高彩度の試料の評価が低いという傾向であった。

「ソフトな-ハードな」において、最も「ソフトな」と評価されたのは、明るい黄の無地であり、次いで黄の細いストライプ、黄の太い

ストライプと黄色の試料が続いている。黄は今回の試料の中では最も高明度に位置しており、明度が影響しているのではないかと考えられる。逆に、最も「ハードな」と評価されたのは、赤の太いストライプであり、次いで濃い青の太いストライプ、明るい青の太いストライプなどが「ハードな」と評価され、暗い色の無地あるいは赤や青のストライプが多く挙げられた。

「上品な-下品な」において、最も「上品な」と評価されたのは、明るい青の無地、次いで暗い青の無地、明るい青のストライプが続いており、青の色彩が上位にきている。逆に、最も「下品な」と評価されたのは、赤の太いストライプであり、次いで緑の太いストライプなどが挙げられており、特に高彩度のストライプが「下品な」と評価されている。

「高価な-安価な」については、比較的試料間の差は小さく、最も「高価な」と評価されたのは、うすい青の無地であった。次いで暗い青の無地、うすい灰の無地、濃い灰の無地などが挙げられており、寒色系および無彩色の無地が多く挙がり、特に低彩度の試料が「高価な」とされていると考えられる。逆に、最も「安価な」と評価されたのは、赤の太いストライプであり、次いで緑の太いストライプ、濃い緑の無地、明るい青のストライプと続き、太いストライプであることと、無地では緑が安っぽい印象を与えることが判明した。

「パンツに合わせやすい-パンツに合わせにくい」は比較的試料間の差が大きく、ばらついている。最も「パンツに合わせやすい」と評価されたのは、うすい灰の細いストライプであり、次いで濃い灰の無地、うすい青の無地と続き、色彩そのもののインパクトの小さい無難な試料が挙げられている。逆に「パンツに合わせにくい」と評価されたのは、緑の太いストライプ、赤の太いストライプなどコントラストの強いものや高彩度の色彩が挙げられており、色柄そのもののイメージが強いものが合わせにくいようである。

3-2-2 因子分析結果

着装画像におけるイメージに内在する要因を検討するために主因子解法による因子分析(バリマックス回転)を行った結果を表5に示した。

固有値1.0以上で第2因子まで抽出され、その累積寄与率は83.5%であり、平面試料同様説明力は十分であると判断できる。まず、第1因子では、平面試料と同様「フォーマルな-カジュアルな」、「派手な-地味な」、「合わせやすい-合わせにくい」、「高価な-安価な」、「上品な-下品な」、「若々しい-年配の」の6イメージ

表5/因子分析結果(着装画像)

形容詞対	FAC1	FAC2
フォーマルな-カジュアルな	.980	-.044
派手な-地味な	-.944	-.167
合わせやすい-合わせにくい	.942	.244
高価な-安価な	.939	-.089
上品な-下品な	.933	.229
若々しい-年配の	-.929	.172
軽やかな-重々しい	-.536	.844
ソフトな-ハードな	.113	.839
暑い-涼しい	-.053	-.703
好きな-嫌いな	.436	.524
寄与率(%)	45.6	37.9
累積寄与率(%)	45.6	83.5

が高い負荷量を示し、これを平面試料同様「品質の因子」とした。これら第1因子については平面試料と同様、「派手な-地味な」、「若々しい-年配の」はマイナスの係数を示していることから、「地味な」ものが年配のイメージやフォーマルな印象につながるといえる。第2因子も平面試料と同様、「軽やかな-重々しい」、「ソフトな-ハードな」、「暑い-涼しい」、「好きな-嫌いな」の4イメージが出現し、これを「軽量感の因子」とした。

また、その因子得点を表6に示したが、第1因子のプラスで高い得点を示したのは、暗い青および灰の無地であり、マイナスで高い得点を示したのは赤や緑のストライプおよび緑の無地などであった。第2因子のプラスで高い得点を示したのは黄のストライプや黄の無地などで、マイナスでは赤のストライプや暗い青や明るい青の濃い無地が高い得点を示しており、色彩の彩度と明度が大きく影響していると考えられる。

表6/因子得点(着装画像)

試料番号	柄	色彩	ストライプ幅	FAC1	FAC2
1	ストライプ	赤	太い	-1.674	-1.458
2			細い	-0.535	-0.598
3		黄	太い	-0.406	1.414
4			細い	0.049	1.650
5		緑	太い	-1.606	-0.075
6			細い	-0.805	1.028
7		暗い青	太い	-0.237	-0.673
8			細い	0.139	-0.414
9		明るい青	太い	-0.976	-0.745
10			細い	0.472	1.277
11		灰	太い	0.708	-0.699
12			細い	0.552	0.784
13	無地	赤	赤1	0.075	-0.747
14			赤2	0.185	0.127
15		黄	黄1	-0.363	1.174
16			黄2	-0.165	1.405
17		緑	緑1	-1.445	-0.186
18			緑2	-0.671	0.927
19		暗い青	暗い青1	1.412	-1.110
20			暗い青2	1.330	-0.759
21		明るい青	明るい青1	-0.572	-1.940
22			明るい青2	0.935	-0.020
23		灰	灰1	1.658	-0.525
24			灰2	1.939	0.164

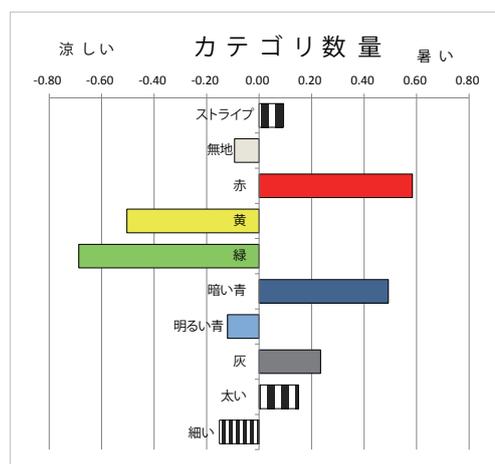


図5/数量化I類の温度感(平面試料)のカテゴリ数量

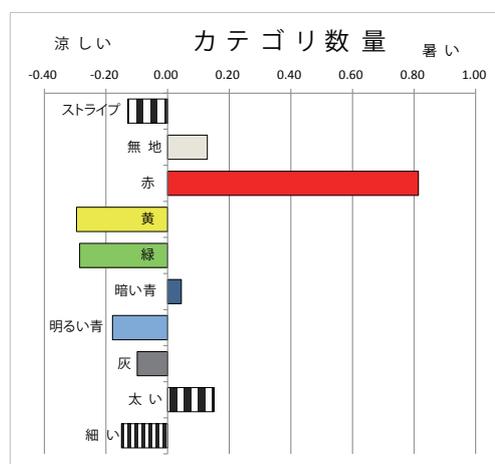


図6/数量化I類の温度感(着装画像)のカテゴリ数量

3-2-3 温度感

クールビズに呼応するためのシャツを検討するために、温度感に関与する要因を解明することとし、数量化I類により柄・色彩・幅をアイテムとして分析を行った。平面試料、着装画像の「暑い-涼しい」の平均官能量を目的変数に、柄、色彩、ストライプ幅を説明変数として各アイテムの偏相関係数を表7に示した。平

表7/数量化I類におけるアイテムの偏相関係数

アイテム	平面試料	着装画像
柄	0.587	0.530
色彩	0.907	0.928
幅	0.645	0.573
重相関の2乗	0.854	0.876

面試料、着装画像とも色彩の偏相関係数が0.90以上の高い係数を示し、色彩が温度感に最も大きく影響することが判明した。次いで両者とも幅、柄の順であるが平面試料の方がやや係数が大きく、着装画像に比べて関与する割合が大きいと考えられる。

次に各アイテムのカテゴリ数量について図5に平面試料を、図6に着装画像を示した。

平面試料について暑いに最も影響を及ぼしているのは、色彩の赤で、次いで暗い青、灰であり、涼しいには緑、黄が関与することが判明した。また柄ではストライプが暑いに、無地が涼しいに、ストライプは太い方が暑い、細い方が涼しいに関与することが判明した。

一方、着装試料については、最も暑いに関与しているのは色彩アイテムの赤であり、次に暗い青が関与しているが、数値的にはわずかである。それ以外の色彩は全て涼しいに関与しており、中でも黄、緑、明るい青が関与することが判明した。またストライプは涼しいに、無地は暑いに影響するが、この点は平面試料と逆の関与になっている。ストライプの太いものは暑いに、細いものは涼しいに関与することは平面試料と同様の結果となった。

4 まとめ

本研究では、紳士シャツの色柄を取り上げ、布地の色柄と着装時のイメージとの関係を比較するとともに温度感に関する要因について検討するために、平面試料と着装画像によるイメージの評価の実験を行った。平面試料による実験は、視覚的溫度感に影響を及ぼすと考えられる8色をあげ、計32種の試料にてSD法による5段階評定の官能検査を行った。一方、着装画像による実験はマッピングにより作成した24種を用いて同様の官能検査を行った。

その結果、平均官能量より、両実験ともイメージには色彩が大きく関与し、特に、色相では赤が大きく影響することが判明した。

また、両実験とも因子分析の結果、固有値1.0以上で品質の因子と軽重感の因子の2因子が抽出された。

数量化I類を用いて溫度感に関与する要因を検討した結果、柄やストライプの太さより色彩が大きく関与することが明らかになった。なお、両実験のカテゴリ数を比較すると、平面実験ではストライプが暑いに関与するが、着装画像では無地が暑いに大きく関与している。したがって、同じ色柄であっても布地としてみるときと着装した時と溫度感は異なることが判明した。

参考文献

- [1]石原久代・橋本令子・栗田容子・加藤雪枝「服装のコーディネートに関与する要因の検討」一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集 54, 284-284 (2002)
- [2]加藤千穂・大澤香奈子・石原久代「縞柄の諸要因が服装の視覚的評価に及ぼす影響」日本繊維製品消費科学会誌 49(10), 711-721 (2008)
- [3]名取和幸「半世紀にわたる女性服装色実態調査」日本色彩学会誌 27(4), 324-329 (2003)
- [4]中谷眞三代「本における20世紀の服飾に関する一考察(第2報)～女性の服装と社会的地位の変遷との関連性～」衣服学会誌 44(1), 45-54 (2000)
- [5]小塩真司「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」東京図書 (2013)
- [6]村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士「SPSSによる多変量解析」オーム社 (2010)